

「第三の医学」との出会いは、今から15年前...

当時の研修先のアメリカでした。

今現在、インターネットで「第三の医学」と検索すると...

【第三の医学に代わるのは、鍼灸である！】とか

【第三の医学に代わるのは、カイロプラクティックである】とか...出ます。

しかし、それは、「第三の医学」と言う名称を、自分たちの領域の名称にしたいが為の

作為的な行為であり、**決して「第三の医学」は、「鍼灸」でも「カイロ」でもありません！**

**「第三の医学」とは、もっと専門的で、幅広い意味合いの「医療」です。**

また、

「第一の医学」を【薬による治療】

「第二の医学」を【手術による医療】

として解釈している、内容分もありますが、これも「適格」とは言えません。

そもそも、「第三の医学」は、アメリカの膨大な医療費などの社会的背景や、

「ヒポクラテスの誓い」である

**医神アポロン、アスクレピオス、ヒギエイア、パナケイアおよびすべての男神と女神に誓う、私の能力と判断にしたがってこの誓いと約束を守ることを。この術を私に教えた人をわが親のごとく敬い、わが財を分かって、その必要あるとき助ける。その子孫を私自身の兄弟のごとくみて、彼らが学ぶことを欲すれば報酬なしにこの術を教える。そして書きものや講義その他あらゆる方法で私の持つ医術の知識をわが息子、わが師の息子、また医の規則にもとずき約束と誓いで結ばれている弟子どもに分かち与え、それ以外の誰にも与えないに立ち返る、動きから現れた「医学」です。**

そして、「第一の医学」をこう解説しています。

【昔は、総合医が医療の最前線にいた。しかし、現在は次第に姿を消し、専門医に以降した】

つまり、「第一の医学」は、そういった「専門医」領域の「医学」を言います。

そして、「第二の医学」は...

【限られた、専門医が提供する医療が、第二の医学で、第一の医学とは違ったアプローチをする】

**第一の医学の医者は、病気を総合的な観点から問題にするのに対し、第二の医学の医者は病気のうちでも自分の専門領域と関係する、側面だけを診る。**

そして、「第三の医学」は、

それらの「第一」「第二」の医学では、解決しなかった「問題」を

**科学的、かつ臨床的に「総合判断」して「解決に導く医学」である！と教わった。**

その中には「鍼灸」も「カイロ」も存在するが、「1つの選択肢」としての「存在」であり

決して、それ自体が「第三の医学」に代わるものではありません。

「第三の医学」の概念は、説明するのに非常に難しく、

科学的な「アプローチ」では、治らない「病気」に対して、行う「行為」であり、

当然、「薬」や「手術」を否定していません。

ただ、患者を全人格的に診て「アプローチ」をかけ、仮に「薬」では「効果」が出ない場合には

他の選択肢を選びます。

それが、仮に、今の医学会において「認められていない」治療方針であっても...

中には...

「温泉療法」「アロマテラピー」「カウンセリング療法」なども「第三の医学」の選択肢に入っています。

しかしながら、1つの選択肢であって、それ自体が「第三の医学」ではありません。

私は、当時その一部であり、また、「全体」である

**「分子矯正栄養学」(日本では、分子栄養学と言うようです)を学びました。**

この「学問」は、当時(15年前)は、日本にその「和訳」文献がありませんでした。

最近になって、数多く出版され始めました。

その詳しい内容は、後で書く事にして...

「第三の医学」の概念を知るうえで...

**その病気の患者がどんな種類の人間かを知る事の方が、その患者がどんな病気にかかっている  
かを知る事よりも大切である...ヒポクラテス**